

▶今年参加した男衆の最年少は12歳。伝統はこれからも受け継がれていきます



男衆は、「ホーホー」と奇声を上げながら、家々の軒先に用意された桶やバケツの水を、屋根に向かって勢いよくふりかけていきます



▶身支度を終えた男衆が、開会の花火を合図に「水かぶりの宿」を出発



▲祭り当日の朝、男衆がまとう「しめなわ」などを作る「水かぶり保存会」の方々。伝統の祭りを支えます



米川の水かぶり



東和町米川の五日町地区に古くから伝わる火伏せの伝統行事。毎年2月の初午(はつうま)に開催される。地区の男衆が顔にすずを塗り、わら装束をまとうと、家々の戸口に用意された桶の水を屋根にかけながら、町中の火伏せを行う。人々は男衆が身に付けた「しめなわ」や「わかか」を抜き取り、自家の屋根などに上げ火伏せのお守りにする。米川の水かぶりの起源は定かたではないが、藤原秀衡が1170年に狼河原に建立した諏訪森大慈寺修行僧の行が起源とも伝えられている。2000年に国の重要無形民俗文化財に指定された。

男衆のわらを引き抜く人たち。抜き取ったわらは火伏せのお守りになるといわれています



▶水かぶりの一行が通り過ぎた後、道路に落ちたわらを片付けます。きれいに「スッキリ」ですね



家族に水かぶりを  
見せてあげたかった

吉岡進さん(中田町境塚)

東和町米川出身ですが、水かぶりを見るのは約20年ぶりになります。今年の開催は土曜日ということもあり、妻と子どもたちを連れて見に来ることができました。



家族で水かぶりを見に来た吉岡さん。みんなで火伏せのわらを取ることができてニッコリ(左が進さん)



▲東和町米川地区入口の国道346号沿いでは「米川の水かぶり保存会」の会員が設置した、高さ4mの巨大わら人形が祭りをPR



▶土曜日開催となった今年、地元の米川小学校の児童たちは、振替授業で地区の伝統行事に参加しました